

「観光地の魅力づくり支援事業」～支援事業・その後を追う！

岐阜県 下呂温泉

支援事業を機に加速するまちづくり
滞在型健康保養温泉地を目指して今、大きく前進

飛騨の山々に囲まれた千年の歴史を有する下呂温泉は日本三名湯の一つ、アルカリ性単純泉の「美人の湯・美肌の湯」として知られています。

これまでも「朝市」「湯めぐり手形」「足湯めぐり」など、観光客が町なかを散策できるしつけ作りに取り組んできましたが、より個人客に対応しうる付加価値の高い観光地づくりが必要という観点から、04年に旅館や事業者などを中心とする「健康保養温泉地づくり実行委員会」が発足、同年3月の五町村合併後、下呂市となった「巖立峡」「横谷峡四つ滝」とともに自然資源を活用したまちづくりをJTB旅ホ連の「観光地の魅力づくり事業」の支援により推進しています。

1. 直径800メートルの地域づくり
「美肌とアンチエイジング」で健康増進温泉地へ

「健康保養温泉地づくり実行委員会」委員長をつとめる水明館の瀧澤洋専務は、「地域全体の活性化を目指すことが重要。先代がやってきたことを引き継ぎ、観光客の変化に合わせ進化させている」と語ります。さかのぼること8年前、観光客が最も少ない12月の対応策と

して、地元青年部を中心とした民官協働の冬の大会「下呂温泉花火ミュージカル冬公演」が実施されました。そのイベント期間中、観光客が早目に到着して町中をそぞろ歩き、食事をするなど地域への波及効果を目的にしたりした下呂温泉では、その後も「謝肉祭」「紅葉ライトアップ」など数々のイベントを創出しながら、まちづくり意識を高めてきました。

「下呂温泉は直径800メートル、観光客が歩くのに最適な大きさの町。イベントも活用しながら地域一体で直径800メートルの地域づくりを目指している」と瀧澤専務。

こうした中、05年度にJTB旅ホ連支援「健康保養温泉地づくり事業」により「美肌とアンチエイジング」をテーマとした取り組みが行われました。まず、女性をターゲットに「美肌とア



「美肌 & アンチエイジング」下呂温泉

ンチエイジング」効果の高い温泉をアピールするため、下呂温泉の泉質と効用を利用した「健康入浴プログラム」、健康・美容効果を高める地場食材を活用したメニューや簡単なストレッチ体操、ウォーキング法などをまとめた2冊のリーフレット「美肌 & アンチエイジング」下呂温泉I・II」を制作しました。女性宿泊客を中心に各旅館で配布しています。

2. 滝めぐりやウォーキングで「自然を生かした」健康増進も

06年度からは「観光地の魅力づくり事業」により、下呂温泉の優れた泉質を生かした取り組みに加えて、周辺の魅力ある観光資源の開発、人材育成による観光まちづくりを推進しています。

周辺の資源に着目して開発した滞在型メニューとしては、高さ5m以上の滝が200ヶ所余りある小坂の滝と溪流のマイナスイオン効果に着目した「小坂町の滝をめぐる散策プログラム」が人気を呼び、11月の連休には、これまでに見たことのないほどの行列ができました。この「小坂の滝めぐり」は、岐阜県が実施する「岐阜の宝の探し認定プロジェクト」で「宝の第一号」に選ばれ、地域



滝めぐりパンフレット

の人々の自信にもつながっています。

支援事業の中では、「NPO法人飛騨小坂200滝」の協力を得て、この滝めぐりや下呂温泉周辺の案内役となるボランティアガイド「ほのぼの会」のメンバー育成も進めてきました。「ほのぼの会」には約20名のガイドがあり主要観光スポットで案内をしていますが、今後は活躍の場を増やし、観光客が気軽に話しかけられるような雰囲気づくりを目指すという事です。

温泉街の活性化に関しては、夕食後、浴衣がけで気軽に散策してもらうために「ナイトウォーキングマップ」が開発され、夕食後に浴衣姿で町中に繰り出す宿泊客の姿や、地元の方々がナイトウォーキングを楽しむ姿も目にするようになりました。また、滞在型メニューの一つとして食事の魅力も重要と考え、2007年



以降、下呂市と商工会が中心となって、地場食材を活用したメニュー開発や調理技術向上をねらった「ランチ & グルメ」を推進、マップを見ながら町中で食事を楽しむ観光客が増え、商店の売り上げも徐々に伸びています。

さて、これまでみてきた内容はすべて「健康増進」のテーマに絡めた新たな取り組みの数々ですが、ここへきてさらにステップアップするチャンスがやってきました。JTB旅ホ連特別事業の一つである「中央省庁観光まちづくりアドバイザー紹介」を利用して、ウェルネス事業の展開について別府温泉の観光カリスマ



街中の様子

鶴田浩一郎氏からアドバイスを受け、このほど、平成20年度「温泉・ノルディックウォーキング・溪流活用型ウェルネス産業起業化にかかわる研究事業」が中小企業庁の「地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業」に承認されたのです。

3. NPOで推進力を一本化・強化

しかし宿泊客数は平成2年の165万人をピークに減少、平成19年度は113万人と大きく落ち込んでいます。減少傾向にあった観光客数は増加傾向となり、確かに町なかを散策するカップルや女性グループ、年配のご夫婦などの賑わいももどってきたとのこと。こうして様々な具体的プログラムやメニューの開発が進んだこともあり、減少傾向にあった観光客数は増加傾向となり、確かに町なかを散策するカップルや女性グループ、年配のご夫婦などの賑わいももどってきたとのこと。こうして様々な具体的プログラムやメニューの開発が進んだこともあり、減少傾向にあった観光客数は増加傾向となり、確かに町なかを散策するカップルや女性グループ、年配のご夫婦などの賑わいももどってきたとのこと。

下呂温泉旅館協同組合の事務局も「下呂温泉の日の姿は10年前と比べて様変わりした。今後は宿泊客数増加に向けて力を入れたい。健康になるためには最低

3泊は必要、ハード面でも低湯湯と高温湯を備えた「温泉保養センター」などの下呂温泉のシンボルタワー的存在がほしい。そこで地域内外の人々が温泉につき、運動プログラムに参加し、優れた自然の中を散策、地元食材を食べて健康になる、そんな姿が目標」と意気込んでいます。

4. 中部地方初のISOグループ認証
で環境意識の高さもアピール

下呂では他にも様々な活発な動きが見られます。昭和40年代初めに「温泉集管理システム」を導入して以来、環境意識が高い下呂温泉では、より環境に優しい温泉をアピールしていくため、5つの旅館がまとまって、2008年1月、JTB旅ホ連の支援を受け「ISO14001グループ認証取得」に着手、昨年12月末に取得しました。これは、中部地方で初のグループ認証となります。紗々羅のISO担当、営業部・井平企画係長によれば「大変だったが、従業員の意識は高く、前向きに取り組む姿勢が早期に表れた。従業員が一体となる連帯感も生まれ、他の業務にも生かしていきたい」と、環境面以外の副次的効果も実感しています。また、水明館のISO担当、総務部・福岡課長は、「既に水明館ではISO9001を取得しているし、元々環境意識は高いが、最新の法規制知識を学び、対応するのは大変だった。しかし従業員も一丸となって取り組んだ」とのこと。こうしたそれぞれの取り組みが地域

全体に広がり、ますます環境意識の高い下呂温泉というアピール効果が期待されています。

5. 雇用対策事業も活用し、ますます大きな動きへ

最近では、推進中の滞在型健康保養地づくりプロジェクトと雇用創出・人材育成を連携させた複合的な事業「地域資源（運動・栄養・休養）の協働システムによる雇用創出・滞在型ウェルネス事業でも地域も元気再生」プロジェクトが、厚生労働省の補助事業「地域雇用創造推進事業」に認可されました。ウェルネスをテーマとした観光事業を推進すること、新たな雇用機会を創出しようと、旅館協同組合、観光協会、商工会等の経済団体が縦横的に連携して3年間で段階的に推進される大規模な事業になりそうです。

このように、下呂温泉における地道な観光地づくりの取り組みは、JTB旅ホ連の支援事業を機に一層活性化し、今、複合的加速度的な展開の真つ只中へと進んできています。その背後には、自然資源と環境を守りながら地域の活性化を願う地域の人々の強い想いと、それを形にしようとする行動してきた主体的な人々の存在が欠かせません。地域全体の信頼関係を強固なものにしていく存在になりそうです。

（財）日本ホテル教育センター
客員研究員 岡田 美奈子